



芸術で社会を豊かに

asazoo 壁画制作共同プロジェクト
広島市安佐動物公園と本学が共同で推進している「asazoo壁画制作共同プロジェクト」の一環で、キリン舎に壁画を制作しました。他にも園内のさまざまな壁画を制作しています。なお、広島市安佐動物公園の公式ロゴマークの制作にも本学芸術学部が協力しています。

キッズキャンパス2013
キッズキャンパスは、広島日野自動車株式会社の寄付講座で、幼児・児童を対象とした公開講座として、2005年にスタートしました。子どもたちの創造性の育成と、彼らを取り巻く環境をより良いものにするを目標として、本学芸術学部の教員と学生が運営と指導に当たっています。

仙養ヶ原シンポジウム
仙養ヶ原シンポジウムは、「仙養ヶ原ふれあいの里」(広島県神石高原町)に滞在して、石の彫刻や立体作品の公開制作と作品展示を行う、地域社会との対話を通じたアートプロジェクトで、本学芸術学部の教員・学生らが参加しました。

情報科学で地域に貢献

みみスイッチ
本学情報科学研究科の教員により開発された「みみスイッチ」は、高齢者の見守り活動支援システムに活用が検討されているイヤホン型の装置で、スマートフォン等で状況を確認することができます。これからの地域を支える技術のひとつとして注目されています。

リエゾンフェスタ
リエゾンフェスタは、本学の研究内容を地域産業界等へ紹介する交流会で、産学官連携活動の推進を図り、地域産業界との共同研究への発展や研究成果の事業化を目指しています。

デジタルサイネージ
広島市中心部に設置されたデジタルサイネージ(電子掲示板)には、本学情報科学研究科の研究が活用されています。路面電車等での実験を経て、現在は地下街シャレオ(広島市中区)、広島市役所(広島市中区)、広島平和記念資料館(広島市中区)、横川駅(広島市西区)等で見ることができます。

写真と事例でみる市大の地域貢献

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念としている本学は、
広島市の公立大学として、地域と共生し、市民の誇りとなる大学を目指しています。
ここでは、本学の地域貢献活動について、写真を通じて事例を紹介します。

ヒロシマへの貢献

HIROSHIMA and PEACE
「HIROSHIMA and PEACE」は、世界中の学生が広島市立大学に集い、「ヒロシマと「平和」について学び語り合う夏期集中講座です。核問題について、自分の国では触れられることの少ない視点を学び、平和について考えます。また、平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列や被爆関係者証言を聞く機会等も提供する、専門的かつ多彩な講座です。本年度11年目を迎え、広島市立大学の看板講座としてすっかり定着しました。

生涯学習の場を提供

各種公開講座
本学では、さまざまな公開講座を開催しています。その1つ「市大英語eラーニング講座」は、本学国際学部の教員が開発した「ネットワーク型集中英語学習システム」を利用して、主に広島市内に在住している市民の方を対象に、平成25年10月に開設した本学のサテライトキャンパス(広島市中区)、仁保公民館、船越公民館、ゆいぽーとに用意されたパソコンで、市民の皆さんに英語学習の機会を提供する自習型講座です。また、今年度は、広島県と広島市の連携強化の一環として、地域に貢献する人材の育成に向けた大学連携を推進するため、県立広島大学と本学が協力した連携公開講座も開催しています。

地域と大学をつなぐ窓口 「広島市立大学社会連携センター」

Tel:082-830-1764 E-mail:office-shakai@office.hiroshima-cu.ac.jp



WB.

No.61 west breeze
2013-03



〈表カバー〉
キッズキャンパス2013
「キッズキャンパス2013」の制作プログラムの様子。上から「模様から想像して絵や工作をする」「色シールで海の生き物を描く」「土や自然のものから絵の具を作って描く」

3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

丁寧に
一人ひとりを大事に
社会との関わりの中で
学生を育てます

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
TEL:082-830-1500(代) FAX:082-830-1656
<http://www.hiroshima-cu.ac.jp>

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外の数多くの分野で活躍する「市大人」。その中から、顕著な活動を行っている人を紹介します。

企画のアイデアのパーツを組み合わせる時が楽しい!

今井さんは、アートイベントを領域横断的にマネジメントする「アートコーディネーター」として活躍しています。また、2013年から「アートギャラリーミヤウチ」の運営に携わっています。そこで、「アートコーディネーター」という仕事について、お話を伺いました。

ー「アートコーディネーター」とはどのような仕事ですか？
アートイベントに関わる複数の業務を接合せながら総合的に運営をする仕事です。私の場合、企画をはじめ、調査、デザイン、広報、予算管理、記録、事務など、全てを担当する時もありますが、実施する場所や関わる人に応じて手法を変えたり、各業務を専門とする人に委託することもあります。与えられた条件やアイデアを上手く編集して良い形に持っていくというイメージでしょうか。

ー「アートコーディネーター」に興味を持ったきっかけは？
8年前ドイツに留学した時、自分の作品発表のために展覧会を企画したのですが、アート関係者はもちろんのこと、一般の方も立ち寄り会話を楽しむという効果がありました。また同年代のアーティストが、取り壊される工場を有効的に使う提案のために、展覧会や音楽イベントを開催していて、今でこそ企画や場作りが表現として評価されるようになってきましたが、当時の自分にとっては衝撃的なことでした。作品を通して生まれるコミュニケーションの価値に気づき、自分と向き合うだけの表現ではない方法を探っていたことが、アートコーディネーターに興味を持ったきっかけです。

ー今井さんは数々の「アートコーディネート」をされていますが、転機となったアートイベントを教えてください。
(大学院博士前期課程)修士2年の時から関わっている広島アートプロジェクトが、取り壊される工場を有効的に使う提案のために、展覧会や音楽イベントを開催していて、今でこそ企画や場作りが表現として評価されるようになってきましたが、当時の自分にとっては衝撃的なことでした。作品を通して生まれるコミュニケーションの価値に気づき、自分と向き合うだけの表現ではない方法を探っていたことが、アートコーディネーターに興味を持ったきっかけです。

ー今井さんは数々の「アートコーディネート」をされていますが、転機となったアートイベントを教えてください。

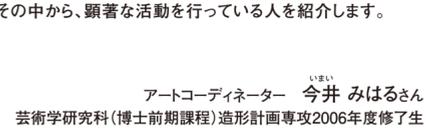
今井みはる(いまい・みはる)
2007年3月、芸術学研究科(博士前期課程)造形計画専攻現代表現課程修了。同領域の非常勤助教や研究員を経て、2012年から公益財団法人みやうち芸術文化振興財団に所属。財団やアートギャラリーミヤウチの設立に関わり、現在は学芸員としての企画運営に携わる。その他、広島アートプロジェクトや旧広島市民球場跡地利用の研究など幅広く活動。広島市立大学芸術学部非常勤講師。
www.imamiharuc.com



アートギャラリーミヤウチ

ART GALLERY miyauchi

教員の活動紹介



アートコーディネーター 今井みはるさん



芸術学研究科(博士前期課程)造形計画専攻2006年度修了生

プロジェクトですね。特に1年目は、プロの作家や学芸員と一緒に仕事をすると、さらに実施場所となる地域の方々との仲介など、アートに関わる仕事の幅広さに驚きました。それと同時に、当時自分が考えていた理想のクリエイターという仕事に近い!と確信した思い出があります。

ーどのようなところにやりがいを感じますか？
展覧会の場合だと、企画のアイデアのパーツを組み合わせる時とオープニングに形になってく時が一番ドキドキしますね。そして、結果的に第三者の方から反響があればもっとうれしいです。どのプロジェクトも未知の領域が多く、毎回違う仕事になることもやりがいのひとつです。

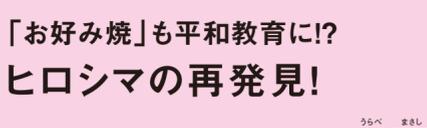
ー現在は、アートギャラリーミヤウチの運営に関わっているそうですね。
廿日市野村病院の前理事長さんから、芸術活動を通して長年お世話になっている地元へ恩返しをしたいという思いでギャラリーを立ち上げたのですが、当時の自分にとっては衝撃的なことでした。作品を通して生まれるコミュニケーションの価値に気づき、自分と向き合うだけの表現ではない方法を探っていたことが、アートコーディネーターに興味を持ったきっかけです。

ーギャラリーの今後の展開はどのように考えていますか？
今後も領域横断的な思考でいきたく、あまり偏ったジャンルで固めたくないという気持ちがあります。でも、一般的な美術館や画廊のような場所ではなく、コミュニティスペースとして機能させたいです。また、地元作家や若い作家を紹介する展示をはじめ、広島市立大学と関連した企画も考えています。ギャラリーの創設者も地元の大学と連携したいと願っておられたので、未永く関係を続けていけるような土台をつくりたいと思っています。

ー広島市立大学で学んだことで現在に生きていることはどのようなことですか？
学生時代には、現代美術をはじめ、グラフィックやランドスケープデザイン、都市計画と、けっこう幅広く学ぶことができ、領域横断をするような思考が自然と身についたように思います。あとは、「疑う」ことですかね(笑)。

ー後輩へのメッセージをお願いします。
一つの物事に対して自分たちの世代がどのように見ているかを、お互いに話す機会を持ちたいですね。

教員の活動紹介



国際学部准教授 土部 匡司

今年度から広島市立の全学校で新しい「平和教育プログラム」が始まりました。私は本プログラムの効果検証に関わっていますが、このプログラムが斬新なのは、小学校から高校までの学習内容が「ひろしま平和ノート」(学習教材)に凝縮され、体系的な平和学習になっていることです。従来の平和学習のように「被爆の実相」や「戦争の悲惨さ」を学ぶだけでなく、フワフワフェスティバル、広島カーブ、お好み焼きなど、現在の私たちの生活と密接に関わっているものが、戦後の広島復興に大きく貢献してきたことについても学習します。まさにヒロシマの「再発見」です。

例えば、広島の名物「お好み焼」。現在は生地の上にキャベツ、もやし、ネギ、天かす、豚バラ肉など、いくつもの層になっていますが、かつては「一銭洋食」と呼ばれ、子どもたちが駄菓子屋の生地のうにのせ、それを半折りにしてウスターソースをかけた「おやつ」でした。そこから、えび、いか、たまご、そばなど、時代とともに具材が重ねられてきました。具材の重なりは「広島市民の思いの重なり」であり、この重なりの上に子どもたちは自分が未来に向けてどのような思いを重ねていくのか。自分たちが明日をつくる「歴史の最前線」にいることを学習します。

被爆体験の風化に伴い、こうしたヒロシマを「再発見」する教材研究の重要性が高まりつつあります。ぜひ本学の大学院国際学研究科で教材研究に取り組み、平和学の学位を取得していただきたいと思います。



ひろしま平和ノート

留学体験記

人生最高の1カ月

国際学部国際学科2年 村上 尋音

大学2年の夏休み、私は高校時代に留学していたチェコ共和国で、再びチェコ語を学ぶため、チェコの国立大学で毎年開催されるサマースクールに参加しました。私が滞在したのは、お城と聖堂がそびえ立つ、中世を感じさせる美しい風景のある街でした。サマースクールには、世界各国から約150名もの学生、学者らが参加し、1か月間、共に学び、共に生活をしました。授業は月曜日から土曜日の9時から13時までで、授業後には発音講座などもあり、夕方は寮で復習・予習、と充実した学習環境が用意されていました。また、毎週末に企画される小旅行や毎晩行われるパーティーを通して、他学生らと交流し、素晴らしい関係を築くことができました。その中でも、私が現在最も関心を持つ分野を研究する他国の研究者や学生らとの出会いは、これからの私の勉学に対する方向性を明確にしてくれました。チェコで過ごしたこの夏は、語学学習や他学生らとの交流だけでなく、思いがけない出会いと機会を与えてくれ、心から「行って良かった」と思える素晴らしい1カ月でした。



クラスメートと(2)列目左端が村上さん



クラスメートと(2)列目左端が村上さん

中国が私に教えてくれたこと

国際学部国際学科2年 平田 藍菜

中国語を第二外国語として選択している私は、現地で中国語を学ぶことにとても魅力を感じ、語学研修への参加を希望しました。能力別に分けられたクラスには約10カ国の人々が集まっており、語学だけでなく、それぞれの国の文化や習慣なども学ぶことができ、良い経験になりました。授業の8割は中国語で行われ、難しい説明などが英語で行われました。中国語は、漢字を使用する日本人にとって、比較的理解しやすい言語のように思っていました。日ごろ漢字に甘えて学習してきたため聞き取り能力が非常に低いということに気付かされました。また、最近日本では若者の孤立化が問題視されていますが、私がこのたび関わった中国の学生は、親元を離れ、大学の寮で集団生活をしているため、思いやりの心が養われており、お互いに協力し合う姿が印象的でした。現在、日中関係はあまり好まれない状態ではありますが、私たち若者が小さな思いやりの心を大切に、少しずつでも関係が改善されていくことを願います。



クラスメートと(右から3番目が平田さん)

教員の研究活動報告

平成25年度科学研究費補助金及び外部競争的資金の採択状況

本学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や各種外部競争的資金に積極的に応募し、採択を受けて学術研究活動を展開しています。本学では、これらの外部資金を活用し、独創的、先駆的な研究に取り組んでいます。

平成25年度の科学研究費補助金および外部競争的資金の採択状況は次のとおりです。

平成25年度科学研究費補助金採択一覧(交付決定額は直接経費のみ 2013.5.31現在)			
(ア)基礎研究(A) 1件		(単位:千円)	
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
国際学部 研究員 篠田 知和基	世界神話の二元構構の研究―善悪・生死・明暗	6,600	
(イ)基礎研究(B) 8件		(単位:千円)	
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
国際学部 准教授 田川 玄	プロパゲーションするアフリカにおける<老いの力>の生成と変容―宗教儀礼領域からの接近	4,100	
情報科学研究科 教授 石光 俊介	発声機能障害者支援システムの小型化実用検討	4,000	
情報科学研究科 教授 吉田 彰嗣	地上デジタルテレビ放送速の見逃しオーバーラップ半導体技術の研究	3,600	
情報科学研究科 教授 前田 香織	IPネットワークにおけるインジヤベスマルチキャストハンドオーバーに関する研究	4,900	
情報科学研究科 教授 角田 良明	アッシュアランスネットワーク設計管理とその応用	4,400	
国際学部 教授 青木 信之	多様な大学運営における英語ラーニング―管理・社会学習の自律的実践	4,800	
広島平和研究所 准教授 ロバート・ジェイ・イコブス	パワシワ・コミュニティの国際的連携構築に向けた比較研究	1,900	
広島平和研究所 講師 竹本 真希子	プロパゲーションとして平和研究における―アクティビズムとヒロシマの記憶	1,500	
(ウ)基礎研究(C) 43件		(単位:千円)	
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
国際学部 教授 赤星 晋作	アメリカにおける連邦・州・学区の教師の資質向上方策に関する総合的研究	900	
国際学部 教授 中島 正博	都市近郊部の外的環境のインフラと内的発展:文化・社会・経済圏からの持続的検証	800	
国際学部 教授 関村 誠	プロシヤ美学におけるアスペクトスの機能―ブランド思想の受容と変容を中心に	700	
国際学部 准教授 西田 竜也	集団防衛問題の成立要件―米国防衛システムの比較分析	600	
国際学部 准教授 板谷 大世	ロシア―共同防衛の「真」(憲法と政治秩序―治安維持法の分析を中心として)	700	
国際学部 准教授 城多 勇	公立大学法人の予算管理と学内資源配分の研究	1,400	
国際学部 准教授 田中 寛子	18世紀以降のアイランド文学におけるアイランド語の伝播	700	
国際学部 准教授 高橋 広雅	社会規範と市場規範の境界に関する研究-経済実践によるアプローチ	900	
国際学部 准教授 潮崎 智美	EUおよびETPにおけるRFRSアドプションに伴う制度内コンフリクトに関する研究	1,000	
情報科学研究科 教授 井上 智生	マルチエージェント協調故障に耐性を持つディジタルシステムの動作法成法	900	
情報科学研究科 教授 若林 真一	FPDの駆動部分駆動機構機能を利用した組合せ問題に対する多量共同最適化リングアルゴリズムの研究	800	
情報科学研究科 教授 石渡 孝	レーザ―多量共同法による膨脹状態ダイナミクス研究	1,000	
情報科学研究科 教授 北村 俊明	数値計算におけるデータの実用的有効桁数を追跡する計算機構の開発	500	
情報科学研究科 教授 林 朗	音楽における多声性と同層性を表現できるモデル手法の開発	500	
情報科学研究科 教授 高濱 徹行	関数形状のタイプ推定と関数近似を利用した効率的な類似付き最適化に関する研究	1,600	
情報科学研究科 教授 高橋 健一	学習者の集中度を測定するリングインタフェース	2,300	
情報科学研究科 教授 松原 行宏	AR技術を用いた能動的に仮想実験環境構築が可能な学習支援システム	1,600	
情報科学研究科 教授 石田 賢治	想定外への対応を促すアッシュアランスネットワーク技術の研究	2,100	
情報科学研究科 准教授 永山 忍	プログラマブル多次元ディジタル波形信号合成器の開発とその設計自動化に関する研究	1,300	
情報科学研究科 准教授 市原 行史	ストラスチャットプロシク問題のテスト手法と信頼度演算機構設計に関する研究	900	
情報科学研究科 准教授 藤波 英剛	新情報の追従と書き換え技術を用いたサーベイ論文の自動化	1,300	
情報科学研究科 准教授 三村 和史	構造を持つMAX_XORSATの反復法の解析	1,200	
情報科学研究科 准教授 小野 貴彦	癌患者の病態と緊急性に応じた救急車の最適派遣経路	800	
情報科学研究科 准教授 高野 知佐	大規模災害に対するレジリエンスを強化するためのネットワーク機能自律回復技術	1,300	
情報科学研究科 准教授 双紙 正和	ハッシュ連鎖による柔軟で効率的な隠語証法	1,600	
情報科学研究科 准教授 内田 智之	蓄メモリWebマイニング手法の開発とクラウドコンピューティングへの応用	1,200	
情報科学研究科 准教授 青山 正人	心電図同期心臓CT画像における左心室壁運動の解析	1,200	
情報科学研究科 准教授 若根 典之	ディジタル教材におけるエージェント型学習支援に関する研究	1,100	
情報科学研究科 准教授 八方 直久	地上デジタルテレビ放送速を用いた半導体の局所構造解析	900	
情報科学研究科 准教授 西 正博	地上デジタルテレビ放送速を用いた検知システムの実用化に関する研究	800	
情報科学研究科 講師 馬場 雅志	非透視投影画像のレンダリングに関する研究	1,500	
情報科学研究科 講師 神尾 武司	強化学習ベース多船船路探索法に基づく海上交通アセスメントツールの実現	800	
情報科学研究科 講師 青藤 雅雄	生標数の閉体上で着目した代数多様体の研究	1,000	
情報科学研究科 助教 高井 博之	非線形通信による移動ロボットネットワークのための時間空間分割型プロトコル	800	
情報科学研究科 助教 河野 英太郎	有線・無線混在時の無線センサ網向け分散ゲートウェイと秘密分散TECによる通信方式	700	
情報科学研究科 助教 高橋 雄三	腰部の自動運動を抑制しない立位作業補助椅子開発のための基礎的検討	1,500	
情報科学研究科 助教 川本 佳代	日本を招入人材のコミュニケーションスキル向上をめざす学習コミュニティの構築	1,100	
芸術学部 教授 伊東 敏光	風景をモチーフとしたコミュニケーションスキル向上をめざす学習コミュニティの構築	600	
芸術学部 准教授 加治屋 健司	「オールドストリート」による1970年前後の前衛美術とその隣接領域に関する研究	1,200	
広島平和研究所 教授 田中 利幸	米空軍における「精密爆撃」に「無差別攻撃」の存在 矛盾拡大の史的考察	400	
広島平和研究所 講師 高橋 博子	金融期間における米国国策と被爆者セバク支援	500	
プロジェクト研究推進室 准教授 釘宮 敏光	情報計画に用いる「ミニゲーム」新用型ソフトウェアの開発	1,300	
国際交流推進センター 講師 神原 信彦	日本と比較文化による学生教育課程を高度化する高大連携プログラムの体系化	800	
(エ)抜克的萌芽研究 3件		(単位:千円)	
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
国際学部 教授 青木 信之	英語トレーニングでの自発的学習につながる学習履歴データの提示に関する研究	800	
国際学部 准教授 渡辺 智恵	クロステストにおける別列の高・中間項目及び種別乱作化の指標に関する研究	900	
情報科学研究科 助教 小作 敏晴	水飲み具の振動原理に基づく構造物からの利用可能な余剰エネルギー回収システムの開発	1,300	
(オ)若手研究(B) 7件		(単位:千円)	
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
国際学部 准教授 土部 匡司	三分岐型から二分岐型への中等学校制度再編に伴う少人数評価制度の変容	500	
情報科学研究科 准教授 大田 知行	自律分散クロスラングに基づく異種モバイルアドホックネットワーク間連携技術	1,000	
情報科学研究科 准教授 宮崎 大輔	全周周光誘導と偏光解析を用いた透明物体の三次元形状計測	500	
情報科学研究科 准教授 原 章	アリの群知能を利用したグラフ構造プログラムの自動生成に関する研究	500	
情報科学研究科 助教 串田 真一	組合せ最適化問題に対する超多次元差分法の開発と動務操作成順法の適用	1,600	
情報科学研究科 助教 疋田 真一	日常生活で使える視座・カメラワーク	800	
広島平和研究所 講師 桐谷 多恵子	被爆直後(1945-1948)の広島-長崎(復興)に関する研究	300	
(カ)新学術領域研究 1件		(単位:千円)	
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
情報科学研究科 教授 日浦 慎作	質感認知に関わる記録・合成と表示	10,600	
(キ)研究活動スタート支援 1件		(単位:千円)	
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
情報科学研究科 講師 谷口 和弘	介護福祉への応用を目指したイノベーション・ヒューマンシミュレーション	1,100	
(ク)研究成果公開促進費 1件		(単位:千円)	
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
国際学部 教授 塚田 健一	アフリカ音楽家の挑戦	1,600	
65件 102,100千円			
<p>基礎研究：1人で行う研究または複数の研究者が共同で行う創造的・先駆的な研究 抜克的萌芽研究：全国的発見、超・専門性のある発見に基づく若手早期の研究 若手研究：37歳以下の研究者が1人で行う研究 新学術領域研究：我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域 研究活動スタート支援：研究機関に採用されたばかりの研究者や若手体業等から復帰する研究者等が1人で行う研究 研究成果公開促進費：学術研究成果を公開するために刊行する学術図書等の助成</p>			
平成25年度外部競争的資金(2013.10.1現在)			
①平成25年度「大学間連携共同教育推進事業」(文部科学省) 1件 (単位:円)			
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
情報科学研究科 教授 樋浦 治	臨床情報医学に卓越した地域の先進医療チームで得た人材育成	14,000,000	
②平成25年度「戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)」(総務省) 2件 (単位:円)			
研究代表者(所属:職名:氏名)	研究課題名	交付内定額	
情報科学研究科 教授 角田 良明	アッシュアランスネットワーク設計管理に基づいた平資料災害時高機能システムの研究開発	4,996,800	
情報科学研究科 講師 谷口 和弘	広島県・産学官連携体制による高齢者見守り支援システムの研究開発	11,350,300	

■**おめでとうございます**
■**芸術学研究科の修了生がアニメーション作品で受賞・入選**
2013年7月、芸術学研究科(博士前期課程)造形計画専攻修了生の杉殿育恵さんが、「ASK?映像祭2013」で大賞を受賞。また、「オタワ国際アニメーションフェスティバル」に入選。
■**芸術学部藁谷教授が「再興第98回院展」で受賞**
2013年8月、芸術学部藁谷実教授が「奨励賞」を受賞。なお、本学の卒業生(修了生)も多数入選。

■**情報科学研究科の修了生が「第12回情報科学技術フォーラム(FIT2013)」で受賞**
2013年9月、情報科学研究科(博士前期課程)情報工学専攻修了生の本庄賢光さんの論文が「FIT論文賞」を受賞。

■**情報科学研究科の学生が「第38回教育システム情報学会」で受賞**
2013年9月、情報科学研究科(博士前期課程)知能工学専攻1年の櫛谷直樹さんが「大会奨励賞」を受賞。

■**芸術学研究科の学生らが広島「KAZARU展」で受賞**
2013年9月、芸術学研究科(博士前期課程)造形芸術専攻1年の田中若葉さんが「広島県教育委員会賞・テーマ賞」、芸術学部デザイン工芸学科3年の柳井千恵子さんが「優秀賞」、芸術学研究科(博士前期課程)造形計画専攻修了生の青木聡子さん(現・芸術学部デザイン工芸学科非常勤助教)と同修了生の松本桂さん(現・芸術学部デザイン工芸学科実習補助員)が「奨励賞」を受賞。

■**市大ニュース**
■**国際学部の学生が広島東洋カーブインターンシップに参加**
2013年7月11日(木)から13日(土)まで、国際学部1年の若嶋大智さんが「広島東洋カーブ平成25年度第1回インターンシップ」に参加しました。遠征に同行しながら横浜スタジアムと明治神宮球場を視察し、グッズや飲食物の販売陳列方法等を学ぶなど、貴重な経験をしました。

■**情報科学研究科の角田教授と谷口講師の研究が「SCOPE」に採択**
2013年8月、情報科学研究科の角田良明教授と谷口和弘講師が研究代表者となる研究が、それぞれ「平成25年度SCOPE(戦略的情報通信研究開発推進事業)」に採択されました。

■**本学学生が広島東洋カーブの「ピースナイター2013」に協力**
2013年8月6日(火)、マツダスタジアムで行われた「ピースナイター」に本学学生が協力しました。試合前のセレモニーでは、本学学生代表が広島東洋カーブ・阪神タイガース両チームの監督・選手らによって平和へのメッセージが記されたろうそくを受け取りました。また、本学学生による「広島市立大学ピースキャンドル実行委員会」が、マツダスタジアムへのプロムナード(遊歩道)入り口横の広場に約4,500個のピースキャンドルを設置しました。

■**広島赤十字・原爆病院賞の第2回受賞作品が決定**
2013年9月、広島赤十字・原爆病院賞の第2回受賞作品として、芸術学研究科(博士後期課程)総合造形芸術専攻1年の菅原有加さんの作品「あめ(阿芽)」が選考され、同院内に常設展示されています。

編集人/若林 真一

発行日/平成25年(2013年)11月1日

発行部数/1,000部

発行所/広島市立大学

発行部数/1,000部